時事新報

第千二百廿一號
明治十九年三月十二日　金曜日
舊丙戌二月七日　(辛、未)
日出午前六時十七分　日入午後六時三分　月出午前十時零二分　月入午後　滿潮午前九時二十八分　午後九時四十八分
(西暦一千八百八十六年)

時事新報定價

一枚金三錢〇一箇月前金六十五錢〇三箇月前金一圓八十錢〇六箇月前金三圓四十錢〇一箇年前金六圓五十錢〇郵便税一箇月金廿六錢〇一箇年金三圓十二錢〇左ニ掲クル各地ニ於テハ該地賣捌所ヨリ配達無料ニテ配達ス(但本社ヨリ直接郵送スルモノハ此限ニアラズ)

東京、横濱、神奈川、小田原、箱根七湯、大阪、京都、大津、神戸、尼ノ崎、郡山、奈良、和歌山、堺、高田、下ノ關、長崎、名古屋、岐阜、岡崎、四日市、津、松阪、山田、桑名、福島、二本松、石ノ巻、白石、函館、仙臺、弘前、宇都宮、高崎、八王子、千住、草加、越ケ谷、粕壁、杉戸、幸手、久喜、栗橋、古河、千葉、佐倉、東金、市川、八幡、船橋

其他府縣地方遠隔ノ場所ハ同レク郵送料不申受候

時事新報廣告料(前金)一行ニ付

一行廿四字詰	一日限	二日以上六日迄	七日以上十五日迄	十六日以上
自一行至十行	十錢	八錢	七錢二厘	六錢八厘
自十一行至三十行	九錢	七錢	六錢三厘	五錢九厘五毛
三十一行以上	八錢	六錢五厘	五錢八厘五毛	五錢五厘

時事新報

日本國の鐵道事業　一

日本の鉄道事業は十五年間に二十英里宛の進歩なり

文明の國には鐵道無かる可らず鐵道は長きは文明の長きものにして文明の短きは乃ち鐵道の短き者なると今改めて言ふに及はず且つ其の鐵道の長短は獨りその國文明の長と短とを表するのみならずして更に其文明進歩の遲速をも表するの實あるに因り先づ某國の事に就き、その文化の程度は如何ん又開明進歩の足取は如何んとの疑問起るときは之に第一着に其國鐵道事業の長短遲速を論じて次に其の文明に評を下すとも事の大体に於ては決して誤りなかるべきなり素より社會人事の多様なる、箇の鐵道の外にまた幾多の文明器具ありて國の進歩を助け世の開明を増すの功多きは識ふ可らざるの明白事なれども然れども直接に其文明を表示して實際に違からざる者は正しく其國の鐵道事業たると文明諸邦人の定論として之を許すも亦不可と見ざるなり

我日本國にて鉄道事業の第一紀元とも稱すべきは去る明治五年六月の事にて東京横濱間に十八英里の鉄道落成を告げ尋で同十年二月神戸大坂間并びに大坂西京間の鉄道開業式あり此線路の全長四十七英里ありその後三年にして同十二年の末に西京大津間十英里の鉄道成りその後尋で敦賀より長濱を經て大垣に達するもの四十九英里成る、以上の線路與に官設に係る者にて尤も右の外に目下着手中なる中山道鉄道の内高崎より横川に至る十八英里の線路は昨年十月に成り倚は其他追々竣功の部分と限り旅客の往復を許す都合となるも近況内にあるとならんとは思へども單に其成迹より論ずれば官設の鉄道事業明治五年の第一紀元より起算して今十九年に至る出入り十五箇年の間に僅々一百四十二英里の落成を見たるの次第、文明の進歩に照して甚だ遲緩なりと許せざるを得ざるなり右の外に北海道小樽港より幌内炭山に至る五十六英里の鉄道は同く官設にして其の線路の開通は去る明治十五年の事なればこれをも右の全線路中に加算ざ、而して此十五年來官設鉄道の工事年に纔に十三英里の排取なりと云ふに至りては我輩大に國の爲に嘆息の思ひを爲すなり又次に民設に係るものに就て論ずるに日本鉄道會社は去る明治十四年の十一月を以て日本政府より東京青森間鉄道架設の特許條約を請受けて越て明治十六年の七月始て上野熊谷間に運輸の業を開き夫れより本年に至るまで足掛け四箇年の間に開通したる線路を問ふに第一區、東京の上野より前橋に達する六十八英里の一線路、東京の赤羽より品川に達する十三英里の一線路、第二區中大宮より宇都宮間四十八英里の一線路以上三線合せて一百十九英里に過ぎず今假り同鉄道會社の成立を明治十五年の一月に在りたるものと看做し之を昨十八年の十二月限りに計算するに即ち滿四年の星霜を經過したるその間に同會社鉄道事業の排取は一年僅に三十英里に過ぎず運搬と云ふも亦愚かなる次第にして歸する所と日本文明の進歩、道草としつゝある者と評するの外は無からん此他私立鉄道會社にて汽車の往復を始めたるものは大坂堺間の鉄道會社が昨年十二月大坂大和川の間に僅々四英里の線路を開きたるまでにして目下我國の鉄道と云ふとは第一に官設の線路第二に日本鉄道會社の線路第三に坂堺鉄道會社の線路以上三線合して三百廿一英里これを日本國鉄道の第一紀元たる明治五年より起算するに一箇年の出來高僅少にも廿一英里内外に過ぎず、我輩は今この二十一英里を執て歐米諸邦鉄道工事の割合に比較するを須ひず唯三千七百餘萬の人口も住みて歳入七千餘萬内外の政府をも維持し將た外國の貿易に七千萬近き大金を運動する此日本帝國人民の肩書に對して甚だ以て赤面せざるを得ざるなり

日本政府が目下頻りに工事を督促しつゝある中山道鉄道并に日本鉄道會社に於てこれも亦着手中なる宇都宮より白河に至る第二區線路の鉄道工事に就ては今暫らく論せず唯ゞ既往十四五箇年來の成迹より評すれば我輩は單に「緩慢極まる」と言ひ放つより他に言葉もある可らず去迚其緩慢は何の誰某の罪咎ありと云ふにも非ず到底は日本全國人民の引受くべき咎にして此一點よりすれば官も民も人も我も一様平等の責任に當らざる可らざるなり鐵道の工事、一日後るゝ時は今の文明世界に在りては日本國永遠一日の利を失ふものにして二日後るゝ時は又永遠に二日の利を失ひ要するに半日片時にても先きに進みたるの駿馬は後より進みて之を追越すこと能はざるが今の文明の大勢なれば若し我日本國の鐵道工事として既往年々二十英里の其代りに更に之を十倍して二百里宛の落成と見えもれとせば今頃は此日本の文化進遂も遙か此明治十九年今日の現狀に立優り居ると疑ひなきなり或は世の論者中には日本は新開國なり幼稚國なり一年二百里は恐ろ、その半數四半數の線路にても思ひも寄らぬ大工事なり迚も成功を望むべきに非ずとて寧ろ我輩の論目を激なりと言ふる、人もあらんかなれども其激ならざるを證せんが爲めに次に西洋諸國鐵道ありてより以來の状況を據べ之を十五年間に二十英里宛の緩慢工事を看て我日本人の心に訴へて其長短の如何を判せんと欲するなり(未完)

官報　各官廳

○閣令第五號

明治八年四月太政官達第六十八號ヲ廢ス

明治十九年三月十一日　内閣總理大臣　伯爵伊藤博文

○東京府告示乙第二十九號

任帝國大學總長　東京府知事從四位勳三等　渡邊洪基

任東京府知事　元老院議官從四位勳三等　高崎五六

右告示ス

明治十九年三月十一日　東京府知事　高崎五六

○辭令

大藏省主税局會計主務ヲ命ス(三月十日内閣)　大藏省主税官　鈴木米三郎

大藏大臣秘書官　平山成信

總務局文書課兼務被仰付(三月九日大藏省)　大藏屬記官　鈴木利亨

總務局備荒儲蓄課長兼整理課長被仰付(同)　大藏省主税官　斯波有造

主税局調査課長被仰付(同)　仝　有尾敬重

仝地租課長被仰付(同)　仝　小島正一

仝酒税課長被仰付(同)　仝　小山正武

仝印紙税課長被仰付(同)　仝　兵頭正懿

仝雜種税課長被仰付(同)　仝　小泉信吉

仝地方税課長被仰付(同)　仝　目賀田種太郎

仝監査課長被仰付(同)　仝　戸叶正明

仝計算課長被仰付(同)　仝　鈴木米三郎

仝徴税費課長被仰付(同)　仝　佐伯惟馨

仝統計課長被仰付(同)　仝　深津無一

(各通)　仝　牛場卓造

仝　橋尾平太

仝　早恒眞樹

仝　野尻邦基

仝　金子彌平

主税局監査課勤務被仰付(同)　大藏省出納局長　松尾臣善

主計局兼務被仰付(同)　大藏省主計官　曾根靜夫

主計局總豫算決算課長兼雜種金課長被仰付(同)　仝　南方彌太郎

主計局歳入課長被仰付(同)　仝　山口宗義

仝歳出第一課長被仰付(同)　仝　中隈敬藏

主計局歳出第二課長兼調査課長被仰付(同)　大藏省主計官　藤村胖

國債局勤務兼出納局監査課長被仰付(同)　大久保利和

出納局勤務被仰付(同)大藏省主計官兼大藏省主計官　山内芳秋

金庫局大坂出張所長被仰付(同)大藏省主計官　吉田市十郎

日本鉄道會社並日本郵船會社監督課長大藏書記官　總務局監査官被仰付(同)　上床親毅

銀行局長加藤濟洋行不在中銀行局長代理被仰付(同)　銀行局次長　錦織義弘

第一期弘前重罪裁判陪席ヲ命ス(三月二日函館控訴裁判所)　判事　鹿松重明

第一期岐阜重罪裁判長ヲ命ス(三月四日名古屋控訴裁判所)　判事

文科大學教授　外山正一

理科大學教授　菊池大麓

醫科大學教授　大澤謙二

法科大學教授　穗積陳重

工科大學教授　志田林三郎

(各通)

帝國大學評議ヲ命ス(三月十日文部省)

(以上三件本年三月十一日官報)

雜報

○東京府養育院の成立及び現狀(去る九日の續き)　院内に窮民室、授業場、算所、會食室、浴室、及び醫局等の設あり又窮民室を分て五部とす男室、女室、幼童室、亡人室、病室是なり窮民男女の中、身体稍健よしく正直なるもの數名を撰び各室の頭目となし病室には別に看護人を置く

凡よそ入院するよは預め先づ醫員之れを診斷して其の身は病羸または老衰と雖ども聊か操作の勞に任ゆる者はこれに工事を授けて半食の弊を防ぐ又幼童の學齢に及べは則ち算筆を授け實用を主として教育し十歳以

上の者は毎の…照會し親族の…すると例とす又…食を與へ朝は…干食量の第一…澡浴は夏秋炎熱…し男女理髪も…院中にて執行…して盲人には特…る品物は之と…代と除扣し純…尤も窮民へ渡…額と本院に預…自活を得べき…習出を許し…本人生活の爲…と勸め同者を…賞を與へ院規…の給與する金…に消費せしめ…を例とす倘懲…ときは其事に…

○平野造船所…邊より中央に…線鉄所、鑄物所…蒸汽罐六箇と…大小各運轉し…と鍛る所あり…と鑄る所等あ…滿ち聲音乱れ…は兼て海軍省…なり又機關と…四百二三十名…七尺、喫水九尺…半鋼鉄艦にし…竣造には今よ…にて現に作造…り注文の新形…又海軍省より…能よて孰れも…

○派遣公使…とあり内務大…極まりたるよ…

○福田行誠師…々遷化のこと…轉住に成ると…

○聯商通信…

○常置委員の…員を以て組織…員四名(再選)…(議長)、多田…氏は改進黨員…は中立派あり…空氣を吹入れ…下一般注目し…各地輸番にて…